

第5回学術集会報告

第5回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 伊東 春樹

公益財団法人日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院

プログラム委員長 齊藤 正和

同 理学療法科

組織委員長 安達 裕一

同 理学療法科

平成27年3月21日、22日の両日に開催しました第5回学術集会は多くの方々のご支援を賜り、天候にも恵まれ、盛会のうちに無事閉会を迎えることができました。予想を大きく上回る約1,500名の方々にご参加頂き、大変喜ばしく思っております。ご協力頂きました全ての関係者の方々に深く御礼を申し上げます。一方で、参加者の方々におかれましては、当日の会場が大変混雑し、ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

本学術集会は「腎臓リハビリテーションの幕開け—確かなるEBMの構築—」をテーマに、共催団体とのジョイントシンポジウム、シンポジウム、教育講演、How to Session、モーニング・ランチョン・イブニング各セミナーを多数企画し、腎臓リハに関連する最新知見のご発表を頂きました。また、口演・ポスター合わせて

154題と、過去最多となる一般演題のご発表を頂くとともに、本学会初の試みとしてYoung Investigator Award (YIA) セッションを開催致しました。どのセッションでも活発なディスカッションが行われ、まさに腎臓リハのエビデンスの構築と普及に向けた歩みを実感させる、素晴らしい内容であったと思っております。

本学術集会が、今後の腎臓リハにおけるエビデンス構築の足掛かりとなり、腎臓リハが腎臓病患者に対する標準診療として提供され、腎臓病患者のQOLと予後改善に寄与する契機となれば、主催者としてこれに勝る喜びはございません。

末筆ではございますが、学術集会主催の機会を頂戴しましたことに深く感謝を申し上げますとともに、本学会が今後ますますご発展されることを、心より祈念申し上げます。

